

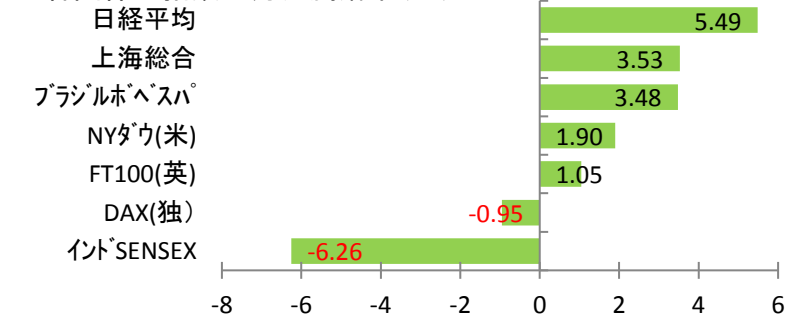
# MONTHLY MARKET VIEW (2018年10月号)

## ○金融市場の動向 (9月中)

### 1. 株式市場

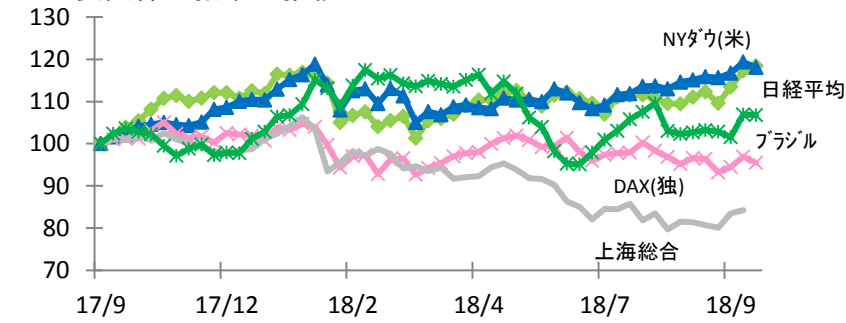
主要国株式相場はまちまち。国内株式相場は、トランプ大統領が中国製品に対する2,000億ドルの追加関税を発表したものの、年内の税率が10%に軽減され米中貿易摩擦激化への懸念が後退したことを受けて、買いが優勢となった。また、為替相場で円安ドル高が進み国内企業の業績改善期待が高まったことも相場上昇を後押しし、日経平均はおよそ8か月ぶりに24,000円台を回復した。

#### ●各国株式指数の月次騰落率(%)



インド株式相場は下落。前月に史上最高値を更新し、高値警戒感から利益確定売りが強まったことや、為替相場でルピー安が進み経常赤字が拡大するとの懸念が重石となった。

#### ●主要国株式指数の推移(2017年9月末を100)

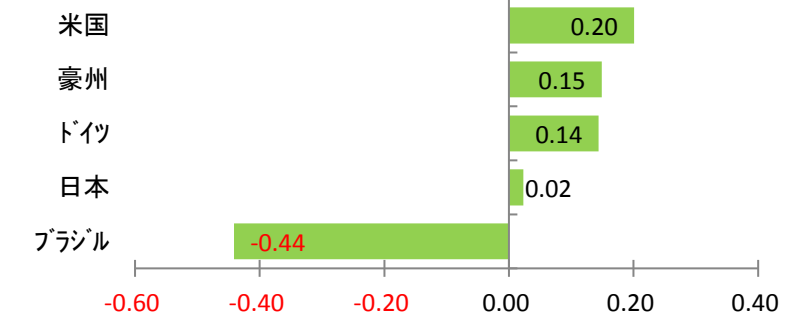


中国株式相場は上昇。米中貿易摩擦懸念の後退、政府による内需刺激策の発表に加え、FTSEラッセル指数への採用が決定し海外資金の流入期待が高まったことが上昇要因となった。

### 2. 債券市場

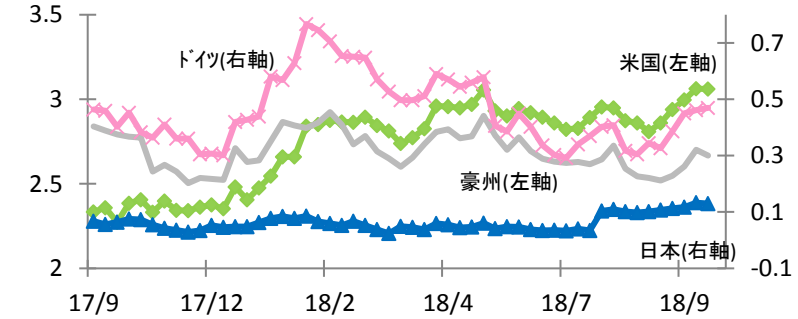
主要国金利はブラジルを除き上昇。米国債券相場は、良好な雇用統計の結果からインフレ期待が高まったことや、米中貿易摩擦激化への懸念が後退したことを受けて、債券売りが優勢となった。その後はFOMC(米連邦公開市場委員会)後のパウエルFRB(米連邦準備理事会)議長の発言を受けて、利上げ加速観測が後退したことから債券買いも入り、上昇幅を縮小する展開となった。

#### ●各国10年金利の月次騰落幅(%)



ブラジル金利は低下。物価上昇率が緩やかなペースで進んでいることや、ブラジル中銀が4会合連続で政策金利を据え置いたことを受けて、利上げ観測が後退した。

#### ●各国10年金利の推移

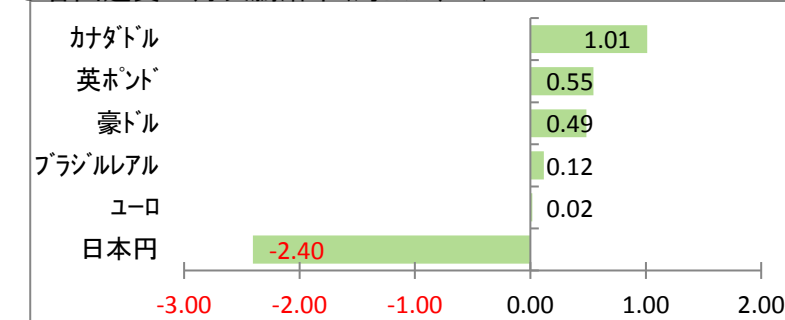


ドイツ金利は上昇。ドラギECB(欧州中央銀行)総裁がユーロ圏の物価上昇に自信を示す発言をしたことを受け、金利上昇圧力が強まった。

### 3. 為替市場

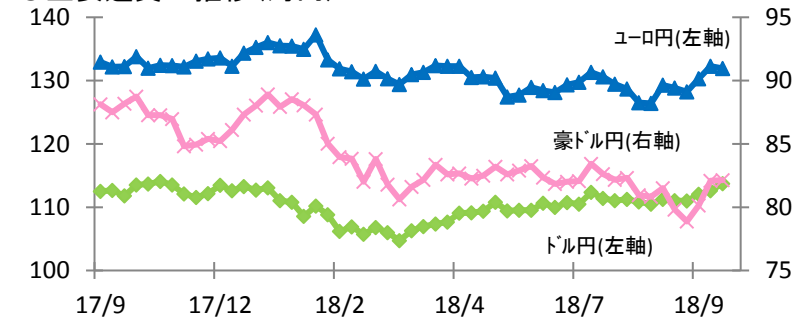
外国為替相場は円が下落。堅調な米国経済を背景に、円売りドル買い優勢の展開となった。また、日米貿易協定で日本の自動車に対する追加関税が当面回避されるとの思惑も円売り材料となり、1ドル113円台後半と、年初来の円安水準をつけた。また、市場参加者のリスク選好姿勢の強まりから、円は他の主要国通貨に対しても下落する展開となった。

#### ●各国通貨の月次騰落率(対ドル、%)



カナダドルが上昇。NAFTA再交渉を巡る不透明感から、上値重く推移する場面もみられたが、原油相場の上昇を背景にカナダドルが底堅く推移した。

#### ●主要通貨の推移(対円)

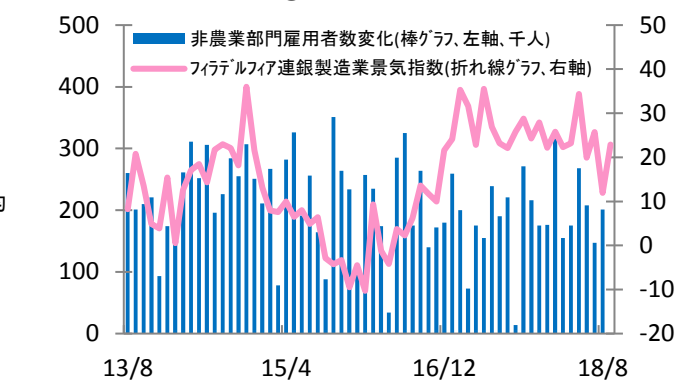


円相場は下落。米国による利上げ継続期待や日米通商問題を巡る懸念の後退から、リスク選好の円売りが優勢となった。

## ○マクロ経済の動向 (9月中)

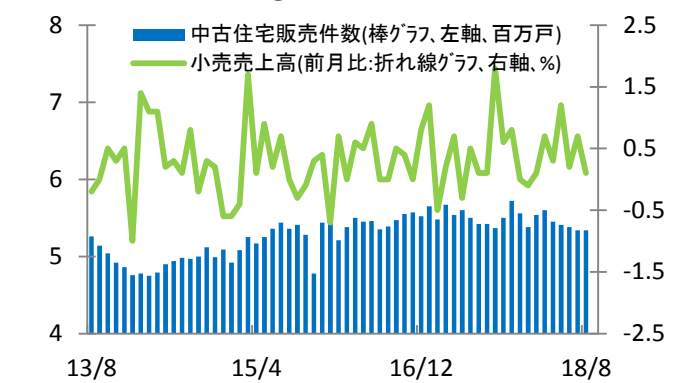
### 1. 米国経済

#### ●経済指標の推移①



雇用者数は前月比+20.1万人と市場予想(+19.0万人)を上回った。失業率は前月比横ばいの3.9%で、依然として低水準であり、雇用環境は堅調さを維持。

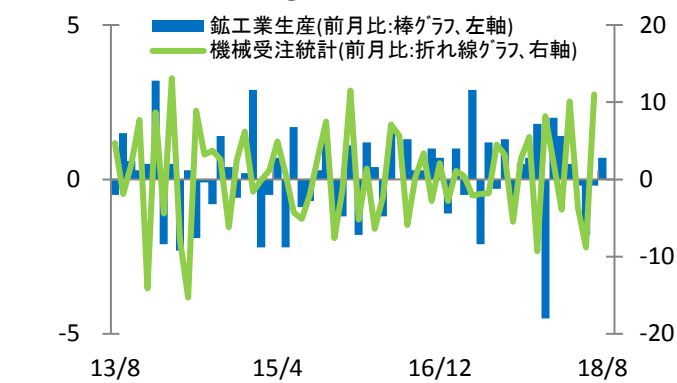
#### ●経済指標の推移②



小売売上高は、自動車や衣料品の減少を受けて、前月比+0.1%と市場予想(+0.4%)を下回った。一方で、前月分は+0.7%(速報値+0.5%)から上方修正された。

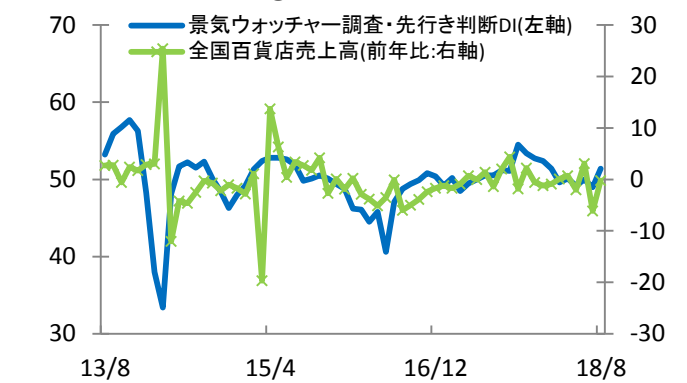
### 2. 日本経済

#### ●経済指標の推移①



鉱工業生産は前月比+0.7%(市場予想+1.4%)と、4か月ぶりの上昇となった。また、機械受注も前月比+11.0%(市場予想▲8.8%)と3か月ぶりに上昇した。

#### ●経済指標の推移②



先行き判断DIは、前月比+2.4ptの51.4と市場予想(48.8)を上回り、景気判断の分かれ目となる50を上回った。

## ○金融市場の見通し

### 1. 株式市場

国内株式相場は、円安進行を背景に企業業績に対する上振れ期待が高まっていることに加え、出遅れ感から海外投資家を中心に資金流入が継続するとみられ、引き続き底堅く推移するとの見方が多い。一方で、中国の景気減速懸念が高まった場合など、リスク回避の動きから売り圧力が強まる可能性がある。米国株式相場は、高値警戒感があるものの、良好な米国景気に加え企業業績に対する拡大期待も強く、底堅く推移するとの見方がある。

### 2. 債券市場

国内金利は、日銀が異次元緩和長期化の副作用への懸念から金利変動幅の柔軟化を図るも、急激な金利上昇に対しては指値オペや国債買入れ額の調整がなされるため上昇幅は限定的と見込まれる。米国金利は、足元の景気の強さを背景に、FRBが利上げを進めており金利上昇が見込まれる。ただし米通商政策や新興国経済に対する懸念が高まった場合、利上げ打ち止めが意識され、米国金利は低下する可能性もある。

### 3. 為替市場

ドル/円相場は、米国経済が堅調に推移するなかFRBが利上げを継続していくとみられることや、日米貿易協定で国内自動車に対する追加関税が当面の間見送りとなり、日米通商問題を巡る懸念が一旦後退したことから、緩やかに円安ドル高が進むとの見方が多い。一方、米通商政策を巡る不透明感が強まる場合には、ドルの上値が重くなる可能性もある。

※本資料は各種データに基づき参考資料として作成しておりますが、その正確性・確実性を保証するものではありません。ここに記載された意見等が事前の連絡なしに変更されることもあります。したがってこれらコメントに全面的に依存して市場性商品の取引導入を決定することはお勧めできません。また本資料は情報提供を目的とし、商品の売買勧誘や申し出を意図したものではありません。